

「エコチャレ2030」を
策定しました!!



チャレンジ1
CO2
排出量を半減!

チャレンジ2
食品
廃棄物を半減!

環境に配慮した
エシカルな商品や
サービスの開発・
供給推進!

組合員とともに
エシカル消費を
拡大!

チャレンジ3

チャレンジ4

詳しくは
裏面を
見てね!

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



SDGs (持続可能な開発目標) とは...

2015年9月、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する、持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。そこに盛り込まれているのが、“誰一人取り残さない”社会の実現にむけた、世界を変えるための17の目標「SDGs(エスディーゼーグズ)」。

途上国も先進国も含めた世界中の一人ひとりに関わる取り組みで、2016年1月から実施が始まっています。

2018 環境報告書

コープこうべエコレポート

INDEX

2017年度の5大ニュース	1
地球温暖化防止と再生可能エネルギー	3
資源循環型の暮らし	5
暮らしと環境をつなげて考える	7
SDGs17の目標とコープこうべの取り組み	9
コープこうべの環境活動のあゆみ	10
コープこうべ環境憲章	10
組合長理事あいさつ	11
コープこうべ概要	11
環境チャレンジ目標(エコチャレ2030)	11

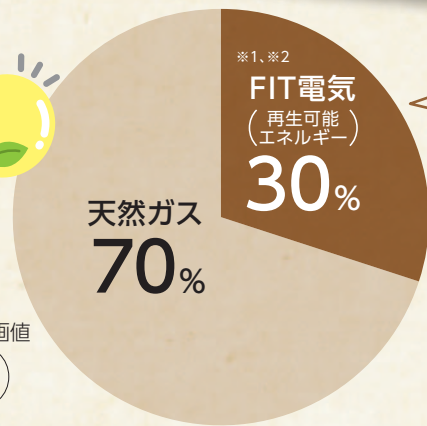
01 再生可能工才

再生可能エネルギー（以下「再生エネ」）や、より環境負荷の小さい電気を選びたいという組合員の声に応え、2017年4月より組合員向けの電力小売事業「コープでんき」を開始しました。「コンセントの向こう側」のことを考えて電源構成にこだわり、FIT電気（再生エネ）30%、天然ガス70%の電気を、すでに25,000世帯にお届けしています（2018年3月時点）。



※1 FIT電気とは…再生可能エネルギーを普及させる制度として、電気の利用者全体で補助を行う「固定価格買取制度(FIT制度)」があります。この制度を利用して発電された再生可能エネルギー(太陽光、バイオマス等)の電気のことです。

※2 コープこうべがこの電気を調達する費用の一部は、コープこうべの組合員で電気をご利用の方以外の方も含め、電気をご利用の全ての皆様から集めた賦課金により賄われており、この電気のCO₂排出量については、火力発電なども含めた全国平均の電気のCO₂排出量を持つ電気として扱われます。

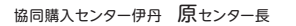


02
コープでんきの

みなみぽうじょう 南坊城 春奈さん いさおき 功興くん きいな 希奈ちゃん
(小学5年生) (小学3年生)



The diagram illustrates the Ito Joint Purchasing Center's sustainable energy initiatives. At the top, a large circular inset shows a building with solar panels (太陽光パネル) and a row of EV charging stations. A speech bubble indicates a CO₂ reduction goal of 25t-CO₂/year (CO₂削減 25t-CO₂/年). Another speech bubble specifies a reduction of 3.8t-CO₂/year per station (CO₂削減 3.8t-CO₂/年 (1台あたり)). A red arrow points from the top right towards the text 'コラボでんきとして組合員に供給' (Supply to members as collaboration electricity). Below the main image, two arrows point to '自家消費' (Self-consumption) and '充電' (Charging). The bottom left shows the building exterior with the text '協同購入センター伊豆' (Ito Joint Purchasing Center). The bottom right shows a white EV car at a charging station with the text '電気自動車に充電' (Charging electric vehicle).



04
2018年1月より

ワが稼働しました！

集められた紙パックは
コアノロールに
生まれ変わります

05 一番身近な環境



地球温暖化防止と再生可能エネルギー

地球温暖化、原発事故後のエネルギー問題に対して、省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及・拡大に取り組みました。



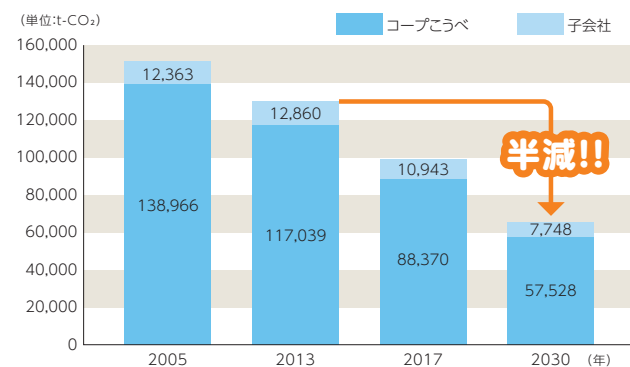
LED照明への切り替え

■ 長期的なCO₂削減計画

環境にやさしい事業活動を通じて組合員の暮らしを守る生協として、2020年までにCO₂排出量を約35%削減(2005年度対比)する長期目標のもと、取り組みをすすめた結果、すでにこの目標を達成しています。

更なるCO₂削減をめざし、2030年までにCO₂排出量を半減させる計画を2017年度策定し、取り組みをさらに強化していきます。

■ 2030年までのCO₂削減計画



■ 省エネチューニングを試験導入

冷蔵冷凍機器や空調の運用調整によって省エネ効率を改善させる「省エネチューニング」を、18事業所で試験導入しました。1事業所あたり、最大で月間13.2%の電気使用量が削減されました。



省エネチューニング作業

■ スマートKCを開設 →2ページ参照



2017年10月に新設したスマートKC(協同購入センター伊丹)

■ 太陽光発電所を拡大

コープこうべグループでは、2013年9月以降、再エネの普及を目的に、兵庫県と大阪府に太陽光パネルを設置し、太陽光発電を推進してきました。

2017年度は新たに、6月に西神戸発電所、9月に伊丹発電所が稼働し、2018年3月末現在、合計20か所(年間で一般家庭2,211軒分の発電量)の太陽光発電所が稼働しました。



西神戸発電所(協同購入センター西神戸)



- | | |
|------------|------------|
| ① 鳴尾浜発電所 | ⑪ WJS魚住発電所 |
| ② 稲美発電所 | ⑫ 須磨発電所 |
| ③ 北神戸発電所 | ⑬ 尼崎発電所 |
| ④ 姫路東発電所 | ⑭ 丹波発電所 |
| ⑤ 氷上発電所 | ⑮ 大王丹波発電所 |
| ⑥ 高槻発電所 | ⑯ 箕面発電所 |
| ⑦ 三木三津田発電所 | ⑰ 淡路発電所 |
| ⑧ あこや学園発電所 | ⑱ 川西発電所 |
| ⑨ 神吉発電所 | ⑲ 西神戸発電所 |
| ⑩ 西播磨発電所 | ⑳ 伊丹発電所 |

1 へらす

くらしや事業で
省エネルギーを進めます

- ① 事業における省エネの推進
- ② くらしにおける省エネの推進

2 つくる

再生可能エネルギーを
利用した発電事業を進めます

- ① コープこうべが進める発電事業の推進
- ② 地域や組合員が進める発電事業の推進

コープこうべのエネルギー政策

コープこうべでは、2013年7月「コープこうべのエネルギー政策」を策定。3つの基本方針に沿って、組合員や地域社会とともに、持続可能なエネルギー社会に向けた取り組みをすすめています。



3 つかってひろげる

再生可能エネルギーによる
電力供給事業を進めます

- ① コープこうべの施設で再エネを使用する事業の推進
- ② 組合員への電力小売事業の推進

■ 再エネ電力を事業所で利用

再エネ電力を含む「コープでんき」を、組合員の家庭にお届けするだけでなく、コープこうべの88事業所にも供給し、再エネのさらなる普及と事業から排出されるCO₂の削減をすすめています。



コープでんきを利用する店舗(コープ園田)

組合員への電力小売事業(コープでんき)

→1ページ参照

■ エネルギーをテーマにした川柳コンテストを行いました

「エネルギーの未来」をテーマに川柳コンテストを実施し、大人・子ども両部門合わせて178人、455句の応募がありました。外部専門家の審査と一般組合員の投票の結果、大人部門・子ども部門各10作品の入賞を決定しました。

- | | | |
|-------|------|---|
| 大人部門 | 最優秀賞 | ● 選ぶなら未来想いの電源を |
| | 優秀賞 | ● 省エネの最大の敵無関心
● できるかなママのカミナリ発電に
● 孫たちへ残す遺産はクリーンエネ |
| 子ども部門 | 最優秀賞 | ● 簡単だ早寝早起きエコですよ |
| | 優秀賞 | ● たまにはね電気を消して星を見て
● 冷蔵庫開けるチャンスは5秒だけ
● 節約だ! 外で遊ぶぞみんなでね |



エネルギー川柳コンテスト表彰式

■ エネルギー学習の取り組み

組合員と共に地球温暖化やエネルギー問題などの「コンセントの向こう側」にある社会的課題を考える学習会を始め、省エネ学習、エネルギー施設の見学会、子ども向けイベントなどを38回開催し、のべ868人が参加しました。また、2017年に作製した学習教材「電気になるものはなあに?」「電気を見える化しよう!」は組合員・職員がエネルギーを身近に考え、学びを伝え合うツールとして貸出しを行い、学習会も含めたべ52回活用されました。



エネルギー見学会(大阪ガス側のガス科学館)

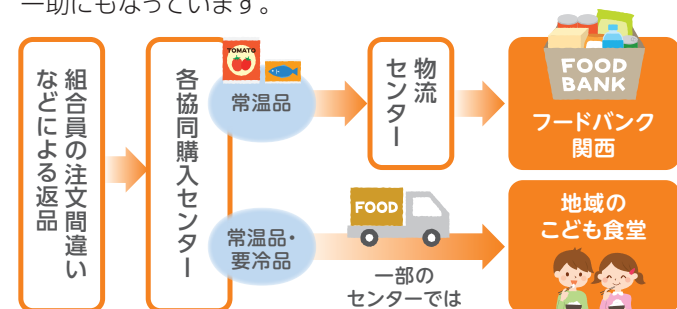
資源循環型の暮らし

事業活動や暮らしの中から発生する食品廃棄物や、容器・包装材などの発生抑制と有効活用に取り組みました。

1 食品ロス削減の取り組み

宅配返品商品のフードバンク・こども食堂への提供

注文間違いなどでやむを得ず返品となった宅配のお届け商品の一部を、フードバンクや地域のこども食堂へ提供しています。フードバンクで集められた食品は、食支援を必要とする人に無償で提供され、食品ロスの削減だけでなく、貧困問題解決の一助にもなっています。



2 食品リサイクル推進の取り組み

環境共生型農園エコファーム

堆肥化施設コープ土づくりセンターと、隣接する(有)みずほ協同農園からなるエコファーム(三木市)では、コープこうべの40店舗の野菜・肉の加工くずを回収・堆肥化し、その堆肥で育てた野菜を再び店舗などで供給しています。

エコファームは、資源循環型の農業を営むだけでなく、若手就農者の育成や、都市に住む消費者が農業について学ぶ場としての役割も担っています。

昨年に引き続き、職員有志による「援農ボランティア」を企画し、約55人が、ビニールハウスの補修や除草作業に汗を流しました。



援農ボランティアに参加した職員と家族

フードドライブ運動

家庭で食べきれない余剰食品を持ち寄って、フードバンクに提供する「フードドライブ」運動を神戸市と連携し、1月15日～17日の3日間に35店舗で実施しました。阪神・淡路大震災のあった1月17日とあわせ、災害備蓄品の期日確認を同時に呼びかけました。集まった600点、359kgの食品をフードバンク等に寄贈しました。

また組合員まつりなどのイベントでもフードドライブの取り組みが各地で行われ、活動の輪が広がっています。



加古川市内店舗でのフードドライブ

エコファームのしくみ



六甲アイランド食品工場のバイオマス発電

パンや豆腐などを製造する六甲アイランド食品工場では、メタン発酵を利用したバイオマス発電などにより、約97%の食品廃棄物をリサイクルしています。



バイオマス発電施設

3 容器包装の削減とリサイクル推進の取り組み

店舗・宅配でのリサイクル品の回収

「ものの命を大切に」のキャッチフレーズのもと、ごみの削減と資源の有効利用を目的に1990年の牛乳パックのリサイクル回収からスタートしました。現在では、店舗で8品目、宅配で4品目の容器包装・資源物を回収しています。

2017年度の回収量 (単位: kg)

紙パック (店舗・宅配)	307,783	透明トレイ・卵パック (店舗)	121,804
飲料缶 (アルミ缶・スチール缶) (店舗)	261,338	卵パック (宅配)	39,057
発泡トレイ (店舗)	161,132	商品カタログ「めーむ」 (宅配)	7,054,323
ペットボトル (店舗)	490,831	商品配達用ポリ袋 (宅配)	102,018
ペットボトルキャップ (店舗)	28,388		

リサイクルセンターの稼働

組合員から回収した容器包装や資源物は、店舗回収分は「鳴尾浜リサイクルセンター」(→2ページ参照)に、宅配回収分は「玉津リサイクルセンター」に集められます。両センターでは、回収した容器包装・資源物をプレス機で圧縮し容積を小さくすることで、運搬回数を減らし、車両燃料の消費やCO₂排出につなげるなど、より環境負荷の小さいリサイクルシステムを実現しています。



玉津リサイクルセンター組合員対象の見学会

4 マイバッグ運動

2017年度持参率 **86.8%** レジ袋節約枚数 **72,661,742枚**

「マイバッグ運動」は1978年に、資源の有効利用とゴミ削減のためにスタートした「買い物袋再利用運動」が出发点です。組合員の皆様のご協力により約40年間の取り組みとなりました。また、行政との連携もひろがっており、現在は18市3町とレジ袋削減に向けた協定を締結しています。

※大阪北地区マイバッグ運動 (→2ページ参照)

使用済小型家電回収ボックスの設置拡大

2017年度は、新たに5店舗に小型家電の回収BOXを設置しました。回収された携帯電話やデジカメなどの小型家電から集められた希少金属は「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」として、2020東京オリンピック・パラリンピックのメダルに生まれ変わります。



使用済小型家電回収ボックス

レジ袋の代金は、全額環境の取り組みに活用しています。

- 1 食と環境を学ぶ学習・活動の強化
- 2 エコファーム学習
- 3 コープの森・社家郷山の学習と整備活動
- 4 エネルギー学習
- 5 容器包装のリサイクルに必要な費用の一部に充当

くらしと環境をつなげて考える

「買いものがくらしや社会を変える。」のことばとおり、私たちが何を選びとるかにより、それを生み出す産業や自然環境を次世代につなぐことができるかどうかが決まります。こうしたつながりの学びと体験を広げています。

1 エシカル消費

エシカルとは誰かの笑顔につながるお買い物。「自分のため」はもちろん、「自分以外のため」…そんな気持ちに支えられるエシカル消費。これまでも、これからもコープこうべは4つの視点をたいせつにします。

コープこうべの4つの視点

私たちのお買い物で…

公正な社会の仕組みが作り出せたら

社会インフラの改善や社会的公正の実現につながる

- たとえば
- 働く場を作り、収入の安定や子どもの教育機会を創出
 - 生産者の生活が成り立つように公正な価格で商品原料などを継続的に買い取り
- フェアトレード コーヒーバッグ 炭焼珈琲
- トイレ紙のペーパーのコアノンシリーズの購入金額の一部をユニセフに寄付し、アンゴラ共和国の子どもたちが安心して学べる学校の環境づくりを支援

私たちのお買い物で…

地球環境を守り続けることができた

持続可能な社会づくりにつながる

- たとえば
- 限られた資源を有効にリサイクル商品
 - 食べる人、作る人、作る環境に配慮した食べもの作り
 - 商品価格の一部を寄付し、原料産地の環境を保全
 - 森や海の資源、生態系に配慮した原料で商品づくり
- FSC®認証 MSC認証 など



エシカルとは…

「倫理的」という意味です。エシカルなお買い物とは地域や社会、環境や人々に配慮して、モノやサービスを購入することを言います。

私たちのお買い物で…

豊かな地域の仕組みが作り出せたら

地域の担い手や生産者の支援、被災地復興などにつながる

- たとえば
- 商品の購入を通じて被災地支援も
 - 地元の食材を利用することで、一次産業を元気に
- 神戸ハイカラメロンパン募金 1個購入につき1円を被災地応援に

私たちのお買い物で…

人々の「生きる」を支えることができた

くらしの問題の解決や生きづらさを抱える人々への支援につながる

- たとえば
- コープこうべの夕食サポート「まいくる」1食あたり0.5円を、(公財)コープともしびボランティア振興財団に寄付しています
 - コープ化粧品シリーズの対象商品1品購入ごとに1円を、日本乳がんピンクリボン運動へ

2 コープこうべ環境基金

コープこうべでは、創立70周年を記念して、1992年3月31日に兵庫県内の自然公園等におけるすぐれた自然環境の保存及び活用に関する活動を助成するため「公益信託コープこうべ環境基金」を設立しました。2017年度は、生物多様性の保全、希少種・在来種復元、食べものと環境のつながりといった視点

で活動を行う22団体に、総額300万円を助成。また、6月には宅配と店舗で集中募金を行い、約234万円が集まり、基金に組み入れました。



助成団体の1つ「淡路東浦ため池・里海交流保全協議会」

3 生産と消費をつなぐ取り組み

とれぴち&とれしゃき

2014年度からコープこうべの全エリアで取り組んできた「とれぴち」(ひょうご地魚推進プロジェクト)。2016年度からすすめている「とれしゃき」(兵庫地場野菜振興プロジェクト)では2017年度、玉ねぎ・岩津ねぎ・完熟梨など、県内で生産される特徴的な野菜・果物を中心に、店内でミニ調理講習(普及活動)などを通じて学びを展開しました。

この取り組みを通じ、地元のものを食べ支えることの意味と必要性への理解を広めたいと考えています。2017年度は、店頭ミニ調理講習338回、料理会・学習会66回、産地体験7回を実施。合計12,986人が参加しました。



地引網漁業の選別体験



岩津ねぎ産地体験・交流

また、2017年度は神戸の食材にフォーカスして、古くから食べ継がれてきた食材とそれを育んできた気候・風土とのつながりに注目し、次世代に語り継ぐ冊子「神戸 里と海からのめぐみ」を刊行しました。

「農園に行こう! 家族でわいわい丹波黒づくり」inみずほ協同農園

組合員、大学生、職員がみずほ協同農園で大豆づくりの一連の流れを体験(組合員家族3組14人と関西国際大学13人が参加)。種まき、苗植え、除草、枝豆・大豆の収穫に加え、収穫した大豆で豆腐や味噌もつくりました。



畑の畝立て



大豆の収穫

4 里地・里山での体験学習を通じ、食べものやくらし方を考える

コープの森・社家郷山

兵庫県「企業の森づくり制度」の第1号として、2008年度からスタートした「コープの森・社家郷山」の活動は、2017年度で当初予定した10年間の区切りを迎えま

した。この取り組みによって、生物多様性が高まり、里山的環境が保全されていることが認められ、環境省「生物多様性保全上重要な里地・里山」(500箇所)に選ばれました。また、学習面でも、生態系のつながりを体感するものや、市民に気軽に社家郷山に訪れてもらうきっかけをつくるプログラムの開発、これらの学習や整備を担う人づくりなど、着実に成果を積み重ねてきました(報告書「10年間の活動を明日へつなぐ」刊行)。

企業の森づくり制度への参加は、さらに5年間継続しますが、社家郷山の多様性と学習活動が持続可能なものとなるためには、今後は、西宮市を核に、地域で活動する市民、学校、NPO、企業などが、それぞれの得意分野を生かして関わっていくことが必要と考えています。2月3日には西宮市主催で生物多様性



西宮市の生物多様性シンポジウム

シンポジウム「西宮市の重要な里地里山〜保全活動と持続可能な取り組みに向けて」が開催され、136人が参加。自然とかわかる体験学習が、子どもたちの生きる力を育むこと、そうした活動を地域全体で盛り立てていくことの必要性について意見交換を行い、深めました。

里地・里山での体験・学習の広がり

各地区で、地域密着のテーマで「食と環境」を学ぶ取り組みが広がっています。

豊能町の「みんなの牧♥里プロジェクト」では、地元住人と連携し、耕作放棄地を活用した農業体験を通じ、地域の活性化の支援をしています。尼崎市の「尼崎21世紀の森」では、都市部に植樹することで、多様な生きものが生息するエリアを作り出しています。淡路島では、農業者と漁業者などがともにすすめる「かいぼり」(農業用ため池の栄養塩を海に流す取り組み)に参加し、地域とともに里と海のつながりを学ぶ準備をすすめています。



ネイチャーゲームで自然観察「尼崎21世紀の森」



SDGs17の目標とコープこうべの取り組み

これまでコープこうべでは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進めてきました。
そしてこれからも、SDGsの17の目標につながる取り組みを進めていきます。

1 貧困をなくそう	目標1 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
	●フードバンク、こども食堂の取り組み ●レッドカップキャンペーン ●賀川豊彦や協同組合、生協の歴史に関する学習活動
2 飢餓をゼロに	目標2 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
	●フードバンク、こども食堂の取り組み ●レッドカップキャンペーン ●フェアトレード商品(コーヒーなど)の供給 ●コープスフレンドリーバナナ ●フードプラン ●地産地消の取り組み
3 すべての人に健康と福祉を	目標3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
	●健康志向食品、スマイルケア食(介護食品)の供給 ●福祉介護事業、サービス付高齢者向け住宅 ●共済事業 ●視覚障がい者対応の取り組み ●見守り活動 ●ピンクリボン運動支援
4 質の高い教育をみんなに	目標4 すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
	●コープカルチャー等の文化事業、協同学苑事業 ●コープの子育て支援事業「Terakoya」(学童保育) ●阪神友愛食品(株)、(株)ゆうあいサポート・能力開発センターの運営 ●「協同組合の思想と実践」のユネスコ無形文化遺産への登録や「国際協同組合デー」を契機にした協同組合の価値の再認識
5 ジェンダー平等を実現しよう	目標5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワメントを行う
	●女性管理職の登用率向上 ●人事制度改革
6 安全な水とトイレを世界中に	目標6 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
	●コープ商品(水切り袋、廃油処理剤など)の供給 ●里山保全のための森林整備活動(コープの森・社家郷山) ●住吉川清掃活動など ●コアノンスマイルスクールプロジェクト
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	目標7 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
	●(株)コープ環境サービスによる太陽光発電事業 ●再生可能エネルギーによる組合員への電力小売事業「コープでんき」、生協施設への電力供給事業
8 働きがいも経済成長も	目標8 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
	●人事制度改革 ●同一労働同一賃金に向けた取り組み ●ワークライフバランスの推進 ●ダイバーシティの取り組み ●協同購入センター西神戸・伊丹の保育ルームの取り組み
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	目標9 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
	●コープスフレンドリーバナナ ●コープ商品における産地指定商品など

10 人や国の不平等をなくそう	目標10 各国内及び各国間の不平等を是正する
	●フェアトレード商品(コーヒーなど)の取り扱い ●コープスフレンドリーバナナ
11 住み続けられるまちづくりを	目標11 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する
	●宅配事業、店舗事業、移動店舗、夕食宅配まいくる ●拠点づくり、居場所・つどい場づくりの取り組み ●買い物ん行こカーの取り組み ●地域団体、NPO、行政や自治体との連携 ●防災のローリングストックの取り組み ●商品購入を通じた被災地復興支援(コープス芯付きわかめ、すこやか牛乳、メロンパン募金など)
12 つくる責任つかう責任	目標12 持続可能な生産消費形態を確保する
	●コープス、コープ商品全般 ●エシカル消費、エシカル月間の取り組み ●サプライチェーン全体を意識したCSR調達の推進 ●フードプラン、エコファームでの資源循環、環境保全型農業の実践 ●ひょうご地魚推進プロジェクト(とれびち)・兵庫地場野菜振興プロジェクト(とれしゃき) ●組合員の学習活動全般 ●援農ボランティア活動(職員・組合員) ●再生可能エネルギーによる組合員への電力小売事業「コープでんき」
13 気候変動に具体的な対策を	目標13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
	●マイバッグ運動、店頭リサイクル活動 ●温室効果ガス削減、省エネの取り組み ●(株)コープ環境サービスによる太陽光発電事業 ●再生可能エネルギーによる組合員への電力小売事業「コープでんき」、生協施設への電力供給事業 ●食品工場におけるゼロエミッション(バイオマス発電など)に向けた取り組み
14 海の豊かさを守ろう	目標14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
	●鹿児島県ウナギ資源増殖対策協議会への募金 ●沖縄恩納村のサングの森づくり(コープスめずく) ●フードプランバリ ●ひょうご地魚推進プロジェクト(とれびち) ●里山里海の取り組み
15 陸の豊かさを守ろう	目標15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
	●FSC認証商品の供給(コープティッシュ) ●レインフォレストアライアンスの商品の取り扱い ●ポルネオ線の回廊プロジェクト(コープ衣料用洗剤) ●里山保全のための森林整備活動(コープの森・社家郷山) ●みんなの牧♥里プロジェクト ●尼崎21世紀の森
16 平和と公正をすべての人に	目標16 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
	●賀川豊彦や協同組合、生協の歴史に関する学習活動 ●NPT(核不拡散条約)再検討会議に向けた「ヒパクシャ国際署名」の取り組み ●憲法についての学習活動 ●ユニセフ協会との連携 ●民主的運営の推進 ●コンプライアンス自主行動指針
17 パートナーシップで目標を達成しよう	目標17 持続可能な開発実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
	●産直商品の開発・推進 ●フードプラン ●ICA(国際協同組合同盟)との連携 ●協同組合間協同の取り組み ●虹の仲間づくりカレッジの取り組み ●地域団体、NPO、行政や自治体との連携

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



コープこうべの環境活動のあゆみ

年度	主な取り組み
1978	●買い物袋再利用運動を開始 ●食品容器包装フィルムを塩ビからポリエチレンに変更
1981	●有リン洗剤の取り扱いを中止 ●せっけんキャンペーンを開始
1990	●コープの環境月間スタート ●環境統一マーク商品の供給を開始 ●牛乳パックリサイクルが本格的にスタート
1991	●買い物袋再利用運動から「買い物袋持参運動」に ●フードプラン第1号商品開発 ●飲料缶、トレイ、ペットボトルのリサイクル開始
1992	●公益信託「コープ環境基金」を設立
1995	●買い物袋持参運動を拡大して「マイバッグ運動」に
1996	●総代会特別決議として「環境憲章」を採択
1998	●コープ武庫之荘ISO14001取得 ●コープ土づくりセンター完成 ●(有)みずほ協同農園発足
1999	●エコファーム施設の完成 ●食品工場ISO14001取得
2000	●全事業活動でISO14001取得
2001	●第一次環境中期計画策定 ●エコファームを本格オープン
2003	●食品工場の廃棄物処理設備完成
2004	●第二次環境中期計画策定
2005	●ISO14001の環境マネジメントシステムを食品工場と統合 ●フードプラン管理規定の策定 ●食品工場のバイオマス利活用取り組みが、兵庫県「ひょうごバイオマスecoモデル」第1号に認定
2007	●第三次環境中期計画策定 ●「マイバッグ運動」のステップアップ ～レジ袋のレジ精算、食品を扱う150店舗で実施 ●容器包装3R推進環境大臣大賞最優秀賞受賞

年度	主な取り組み
2008	●兵庫県、西宮市と企業の森づくり協定締結 ●「コープの森・社家郷山」の取り組み開始
2010	●店舗で卵パック、透明トレイの回収スタート ●地産地消の取り組み強化「ひょうご発」商品開発
2011	●コープこうべ環境基金20周年のつどい開催
2012	●国際協同組合年記念事業「食と環境のシンポジウム」 「虹の仲間」で森づくり開催 ●住吉事務所が関西エコオフィス大賞「節電の励行部門賞」を受賞
2013	●鳴尾浜配送センターで太陽光発電を開始 ●アルミ付紙パックの回収開始
2014	●子会社の(株)ゆうあいサポートで店頭回収のペットボトルのプレス作業開始 ●ISO14001の認証を返上し、自主運用に切り替え ●玉津リサイクルセンター稼働(宅配の商品情報紙「めーむ」の圧縮作業を開始)
2015	●再生可能エネルギーを利用する電力供給事業を開始 ●「おおさか環境賞」の準大賞を受賞 ●ペットボトルのキャップの回収開始 ●第3回 食と農林漁業の食育優良活動表彰「農林水産大臣賞(企業部門)」を受賞 ●コープの森・社家郷山が環境省「生物多様性保全上重要な里地里山」(500箇所)に選定 ●宅配返品商品のフードバンク関西への提供開始 ●みんなの牧♥里プロジェクトの取り組み開始
2016	●玉津リサイクルセンターで、宅配の商品配達用ポリ袋の圧縮作業を開始
2017	●再生可能エネルギー電力を含む「コープでんき」を組合員に供給する電力小売事業を開始 ●鳴尾浜リサイクルセンター稼働 ●協同購入センター伊丹がスマートKCとして稼働

コープこうべ環境憲章

有史以来、私たちは自然界の恩恵を受け、自然との共生を図りながら生きてきました。しかしながら、今や私たち人間が環境に与える影響は極度に増大し、地球環境を大きく破壊しつつあります。これは人類の生存をも脅かす重大な問題です。

この地球は私たちが祖先から受け継いだものであると同時に、子孫から託されているかけがえのないものです。地球環境を守るためには、私たち一人ひとりが生活スタイルを見直すとともに、事業のあり方を変革し、行政・企業・消費者が力を合わせて環境保全型社会への転換を図っていくしかありません。

コープこうべは、くらしを守るという生活協同組合の目的にそって、環境問題解決のために全力をつくすことを誓い、「コープこうべ環境憲章」を以下のとおり定めます。

基本理念

地球環境はすべての面で有限であり、私たち人間はその中で活動せざるをえません。コープこうべの組合員・職員の一人ひとりはそのことを認識し、限られた地球環境の中で自然と共生していくという思いを大切に持ち続けていきます。

創立以来、コープこうべは組合員のくらしを守るための運動を展開

してきました。今後さらに、環境問題を「くらしのあり方、社会システムのあり方を問う意識変革の問題」と認識し、「健康・福祉・平和」を守る運動とともに、生協運動の根源的課題として、事業活動も含めて先進的な取り組みを積極的に展開していきます。

行動指針

生協は、消費者運動としての側面と同時に事業体としての側面をもっており、その両面で環境保全への取り組みを推進していきます。

コープこうべは以下の方針を基本として、組合員と職員が一緒になって考え、悩み、創造し、行動するとともに、環境保全活動や環境負荷に関する情報を公開していきます。

1. くらしの見直し運動をすすめ、環境保全型社会への転換を推進します。
2. 事業活動から発生する直接・間接の環境負荷の低減を推進します。
① 環境に配慮した事業体への転換を図ります。
② 環境に配慮した商品の開発・改善を図ります。

1996年5月31日
生活協同組合コープこうべ 第76期通常総代会

組合長理事 あいさつ

生活協同組合コープこうべ
組合長理事

木田 克也



2015年9月、国連で「持続可能な開発のための2030アジェンダ(SDGs)」が全会一致で採択され、世界全体で持続可能な社会の実現に向けて取り組むことが確認されました。

SDGsは、持続可能性に関連するすべての分野が包含される新たな枠組みとして、昨今急速に注目されています。また、地球温暖化などの環境分野だけでなく、“誰一人取り残さない”社会の実現に向け、全世界が取り組むべき課題として17の目標が掲げられ、これらの目標を意識した取り組みが世界全体で始まっています。

コープこうべは、これまで組合員の皆さんとともに持続可能な社会の実現に向け、環境問題をはじめ様々な取り組みを進めてまいりました。取り組むテーマは時代時代に変化してきましたが、あらためて生協の事業や活動を振り返ってみると、このSDGsの枠組みと軌を一にする取り組みが数多くみられます。

本誌では2017年度に取り組んだ「地球温暖化防止と再生可能エネルギー普及に向けた取り組み」、「食品ロス削減やリサイクルなどの資源循環の取り組み」、そして「くらしと環境をつなげて考えるエシカル消費の取り組み」の概要とともに、これらの取り組みをあらためてSDGsの枠組みで捉えなおし、整理しています。

このたび、2030年に向けた環境チャレンジ目標「エコチャレ2030」を策定しました。今後、この目標に沿ってこれまで以上に環境の取り組みを進めていくとともに、生協の役割や価値を広く伝えながら、地域や社会の担い手と連携し、いつまでも安心してくらすことができる地域づくり、人づくりをすすめていきたいと考えています。

3年後の2021年、コープこうべは創立100周年の節目を迎えます。ゴールではなく通過点として、次の100周年に向けて一緒に取り組みを進めてまいりましょう！

2018年5月

コープこうべ概要 (2018年3月31日現在)

名称	生活協同組合コープこうべ
設立	1921年(大正10年)
所在地	〒658-8555 兵庫県神戸市東灘区住吉本町1丁目3番19号
出資金	364.6億円
供給高	2,422.2億円
組合員数	1,694,984人
組織率	50.0% ※活動エリア内世帯に占める組合員世帯の割合
活動エリア	兵庫県全域・京都府京丹後市、 大阪府北部(豊中市、箕面市、池田市、吹田市、茨木市、 高槻市、摂津市、能勢町、豊能町、島本町、大阪市淀川3区)
主な事業	組合員世帯を対象に、商品の生産・供給事業および 教育・学習を行い、生活文化の向上を図る事業など
総職員数	9,642人
事業所	住吉事務所/1か所 地区活動本部/8か所 店舗事業/161店舗 宅配事業/23事業所 食品工場/1か所 物流センター/7センター その他/48事業所

コープこうべの環境への取り組みはホームページで詳しくご紹介しています

<http://eco.coop-kobe.net/>

コープこうべの環境活動

検索

データ集 <http://www.kobe.coop.or.jp/ecoreport/index.html>



「生活協同組合コープこうべ 2018環境報告書」

編集・発行/生活協同組合コープこうべ 企画政策部 環境推進
TEL: 078-856-2068 FAX: 078-856-1700

2018年5月発行

環境チャレンジ目標 エコチャレ 2030

目標年度: 2030年度

2030年に向けた環境チャレンジ目標を策定し、取り組みを推進しています。

チャレンジ1 事業活動における CO₂排出量を半減!

2050年度には、
90%削減を
目指す!

重点施策

- 設備更新/車両更新
- 省エネチューニング
- 太陽光自家発電・自家消費
- 電気自動車・トラックの導入
- コープでんきへの切替



チャレンジ2 事業活動における 食品廃棄物を半減!

重点施策

- 店舗廃棄重量削減
- フードバンク等への食品提供拡大
- 食品リサイクル率向上



チャレンジ3 環境に配慮したエシカルな 商品やサービスの 開発・供給推進!

重点施策

- 環境配慮型のエシカルな
商品・サービスの開発・供給推進
- 地産地消の推進
- 容器包装の削減



チャレンジ4 組合員とともに エシカル消費を拡大!

重点施策

- エシカルな商品、エシカルな
くらしのあり方に関する
学習・広報の推進
- 組合員とともに
エシカル消費を拡大

